

土砂洪水災害から命を守る

【お問合せ先】
白川町役場 総務課行政係
電話：0574-72-1311 (代)

警戒レベルを用いた避難情報

警戒レベルは、水害や土砂災害に備えて住民がとるべき行動をお知らせするために5段階にレベル分けしたもので、市区町村が避難情報と合わせて出す情報です。

避難情報等（警戒レベル）				河川水位や雨の情報(警戒レベル相当情報)	
警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	避難情報等	防災気象情報(警戒レベル相当情報)	
				浸水の情報(河川)	土砂災害の情報(雨)
5	災害発生又は切迫	命の危険 直ちに安全確保！ ・警戒レベル5は、すでに安全な避難ができず命が危険な状況です。 ・警戒レベル5緊急安全確保の発令を待ってはいけません！ ・ただし、警戒レベル5は、市区町村が災害の発生・切迫を把握できた場合に、可能な範囲で発令される情報であり、必ず発令される情報ではありません。	緊急安全確保	5相当 氾濫発生情報	大雨特別警報(土砂災害)
~~~~~ < 警戒レベル4までに必ず避難！ > ~~~~~					
4	災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難 ・警戒レベル4避難指示は、立退き避難に必要な時間や日没時間等を考慮して発令される情報で、このタイミングで危険な場所から避難する必要があります。	避難指示	4相当 氾濫危険情報	土砂災害警戒情報
3	災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難 ・「高齢者等」は障害のある人や避難を支援する者も含んでいます。 ・さらに、高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難するタイミングです。	高齢者等避難	3相当 氾濫警戒情報 洪水警報	大雨警報
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水注意報	2相当 氾濫注意情報	―――
1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報	1相当 ―――	―――

※市区町村長は、河川や雨の情報(警戒レベル相当情報)のほか、地域の土地利用や災害実績なども踏まえ総合的に避難情報等(警戒レベル)の発令判断をすることから、警戒レベルと警戒レベル相当情報が出るタイミングや対象地域は必ずしも一致しません。避難指示等が発令されたら速やかに避難行動をとる必要がありますが、突発的な災害では、発令が間に合わないこともあります。避難指示等が発令されていなくても、警戒レベルに相当する気象情報を認識し、危険を感じたら早めに避難行動をとってください。大切なことは「自分で判断する」ということです。警戒レベル5はすでに災害が発生・切迫している状況です。また、必ず発令されるものではありません。警戒レベル3高齢者等避難や警戒レベル4避難指示で、地域の皆さんで声をかけあって、安全・確実に避難しましょう。

避難に役立つ情報の入手先

災害発生の際には、情報を入手し、早めの避難を心がけましょう。



●岐阜地方気象台  
https://www.data.jma.go.jp/gifu/  
【情報の種類】気象注意報・警報、大雨警報(土砂災害)危険度分布、高解像度降水ナウキャスト、台風情報ほか



●岐阜県 川の防災情報  
https://www.kasen.pref.gifu.lg.jp/#/home  
【情報の種類】河川CCTVカメラ、川の水位情報、大雨警報(土砂災害)危険度分布、雨量情報ほか



●岐阜県 総合防災ポータル  
https://www.pref.gifu.lg.jp/bousai/  
【情報の種類】避難情報、避難所開設情報、警戒レベル、気象情報ほか



●ぎふ土砂災害警戒情報ポータル  
https://alert.sabo.pref.gifu.lg.jp/web_pub/top/top.html  
【情報の種類】土砂災害危険度情報、雨量情報、大雨警報(土砂災害)危険度分布ほか



●白川町ホームページ  
https://www.town.shirakawa.lg.jp/  
【情報の種類】災害情報、避難情報、防災情報、生活情報ほか



●メール配信サービス「すぐメールしらかわ」  
https://plus.sugumail.com/usr/shirakawa/home  
【情報の種類】気象情報、土砂災害警報情報、避難情報ほか

防災用語

想定最大規模降雨とは？  
[想定し得る最大規模の降雨（計画規模を上回るもの）]のことで、降雨の特性が似ている地域において観測された最大の降雨量を基に、個々の河川の流域面積等を踏まえて算定した降雨量。算定された降雨量は、1,000年に1回程度を上回るか、その程度の降雨量となるように設定しています。1,000 年毎に1回発生する周期的な降雨ではなく、1 年の間に発生する確率が 1/1,000 程度を想定しています。発生確率は小さいですが、規模の大きな降雨であることを示しています。

計画規模降雨とは？

「河川整備の目標とする降雨」のことで、5～100 年に1回程度を想定しています。5～100 年毎に1回発生する周期的な降雨ではなく、1 年の間に発生する確率が 1/100～1/5（1～20％）程度を想定しています。

土砂災害時 避難行動のポイント

土砂災害は突発性が高く、甚大な被害をもたらします。上記の前兆現象は、経験則として土砂災害発生の前に感じられるものとして知られていますが、特に警戒区域内においては避難の猶予がほとんどないものと考え、「様子がおかしい」と感じたら、ただちに避難行動をとってください。

1 土砂災害警戒区域内、また指定が無くとも「谷の出口」や「がけの下」からは、いち早く退避する。

2 指定避難所までの移動が困難な際は、近隣の堅牢な建物の高層階へ避難する。

3 外出にも危険が伴う状況で、やむなく自宅に留まる場合は、2階以上の出来るだけ山側から離れた部屋に移動する。



洪水時 避難行動のポイント、危険な場所

！ 浸水が始まる前に早めの避難を

！ 状況に応じた避難を

！ 川や用水路に近づかない

！ 地下室、地下街は危険

！ やむなく浸水の中を歩く際は

！ アンダーパスは危険

氾濫水は勢いが強く、大人の膝程度の深さで歩行が困難となる。浸水してから自宅外への避難は危険。気象予報や河川洪水予報などの情報をもとに、身の危険を感じたら自主的に避難を開始する。

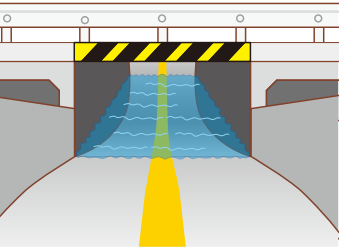
周囲の状況が危険で避難場所まで移動できない場合は、自宅や近隣の頑丈な建物のできるだけ高い階に避難する。移動途中であっても、危険を感じた場合は、近隣の建物のできるだけ高い階に退避する。

降雨が続き不安に思っても、川や用水路、田畑の用水は見に行かない。やむを得ない場合は複数人で行動する。河川の様子の確認は、自治体などのライブカメラ情報を活用する。また、避難の途中も増水した川の近くを通るのは避ける。

地下にいる場合、地上の様子が把握しづらく、避難経路が限定される。また、地上が冠水すると、一気に水が流れ込んでくる場合もある。停電の可能性も高く、脱出が困難となる。

裸足、長靴は厳禁。水中で脱げづらい紐靴などが適している。また、氾濫水は濁っているため、水面下が確認できない。長い棒などを杖替わりとし、側溝やマンホール、障害物に注意する。

道路や線路の下をくぐるアンダーパスや地下道は、洪水の際、真っ先に浸水する。場所を把握し、迂回路を想定しておく。



(ページ内の図表は気象庁ホームページより抜粋、編集)

非常持ち出し品

●とっさの場合に持ち出せるようにリュックサックにつめておきたい

貴重品

情報収集用品

衛生用品

貴重食品など

- 現金 ※公衆電話用に硬貨も
- 印鑑
- 家や車の予備鍵
- 証書類のコピー (健康保険証、免許証、通帳、保険証書、権利書など)
- 携帯ラジオ ※予備電池も
- 携帯電話(スマートフォン)の充電器
- モバイルバッテリー ※ライト付きが便利
- 筆記用具
- 懐中電灯 ※予備電池も
- ヘルメット
- 防災ずきん
- 軍手
- スリッパ
- 笛やブザー ※居場所を知らせるもの
- マッチ/ライター
- 毛布/保温シート
- 使い捨てカイロ
- 救急セット ※常備薬も
- タオル
- マスク
- 消毒液
- 体温計
- 非常食 ※軽く高カロリーのもの
- 飲料水
- 給水袋
- 万能ナイフ
- トイレットペーパー
- ウェットティッシュ
- ビニール袋
- 下着類



備蓄品

●少なくとも3日(できれば1週間)は自力で生活できるように準備

飲料水 ※1人1日3ℓ

食品 ※アルファー化米、長期保存食品など専用品の他、ローリングストックの活用を

給水用ポリタンク/バケツ

カセットコンロ/ガスボンベ

使い捨ての食器類

食品用ラップ

ランタン

災害用トイレット

からだ拭きシート

水のいらないシャンプー

ガムテープ

ビニールシート



上記リストを参考に、特に乳幼児用品、高齢者用品等、災害時に配慮すべき方の用品も、家族構成に合わせて追加しましょう。